

保健通信

平成26年5月23日 益田翔陽高校 保健室

インフルエンザは「流れてくるもの」！？～保健室のカタカナ語～

異物への反応が”アレルギー”に

春になると、花粉症に悩まされる人が多くなりますね。この症状は、特定の異物を体から排除する免疫反応が過剰に起こるアレルギー(allergy)です。語源はギリシャ語で「変じた作用」という意味。ちなみに、花粉症で鼻が詰まるのは、鼻粘膜の毛細血管が拡張して腫れるから。これは異物の侵入を防ぐため、鼻水が固まって詰まったわけではありません。

”インフルエンザ”は変異しやすい

インフルエンザ(influenza)は、ラテン語の *influentia*(流れてくるもの)が語源です。1743年にイタリアで流行した感染症を現地の人が *influenza* と呼び、やがて英語圏でもそのまま呼ぶようになりました。インフルエンザウイルスは、A・B・C型に分類されます。中でも、A型はトリ・ブタ・ヒトなど生物種を超えて感染するので変異することが多く、ウイルスの表面に付いているタンパク質「ヘマグルチニン(hemagglutinin)」と酵素「ノイラミニダーゼ(neuraminidase)」の種類で区別されます。よくインフルエンザの型について「H7N9」などと耳にしますが、このHとNはヘマグルチニンとノイラミニダーゼの頭文字です。

”ワクチン”は牛！？

予防接種で打つワクチン(vaccine)は、「牛」を意味するラテン語に由来します。18世紀の終わり、エドワード・ジェンナーが世界ではじめて開発したワクチンは、感染力が強くて死に至ることも多い天然痘を予防するためのものでした。人体に接種したのは、より症状の軽い病気の牛痘のウイルス。このことから接種するものを「牛」と呼ぶようになったのです。

インフルエンザなどの感染症をもたらす病原性ウイルス(virus)の存在は、19世紀終わりになって、ようやく発見できました。ウイルスの語源はラテン語の「毒液」です。

- ・インフルエンザ(influenza)／16世紀、天体の運行や寒気などの影響でかかる病気と考えられ、イタリアで *influenza*(影響)と名付けられた。
- ・ストレッチャー(stretcher)／担架。stretch(伸びる、伸ばす)の名詞形。
- ・アレルギー(allergy)／ギリシャ語の「allos(変じた)」＋「ergon(作用)」。
- ・ティッシュ(tissue)／古いフランス語の「織物」。ティッシュペーパーはパルプ繊維が組み合わさっている。生物学で tissue といえば組織。細胞が組み合わさって組織を作り、組織が organ(器官)
- ・ギプス(gips)／石膏を意味するドイツ語
- ・ガーゼ(gauze)／地名のガザ(パレスチナ)が語源。「薄い絹・綿」の意。ガザの名産品であったことから。
- ・ピンセット(pincette)／フランス語。「pince(つまむ)」＋「ette(小さなもの)」。英語では tweezers。もともとは外科医が使う針などを収めた小箱を意味し、転用された。
- ・バンドエイド(BAND-AID)／登録商標。「bandage(包帯)」＋「aid(援助)」。